

## ◇ 卷頭言 ◇

### 悔いの多かった私の読書

工業化学科教官 金 田 誠

自分のことを思うと、君たちに本を読めとは言いにくい。私には本らしい本を読んだ覚えがあまり無いからである。勿論それを平気でいるわけではない。学生時代にもっと読書しておけばよかったと後悔している。

小学校や中学の頃、私は本に親しむ子供ではなかった。中学五年のとき、その頃は感受性が強く最も読書すべき時であった筈なのに、戦争に負けて本どころではなかったような気がする。もっとも、どんな時でも、もともと読書していた人がいたであろうから、言いわけにはならないが、敗戦は大変なことであった。それまで教えてこまれた軍国主義の思想が一夜で崩壊し、日本中が大混乱の中に放りこまれたのだから、私程度の平均的中学生にはどうしてよいか分ろう筈もなく、とても本どころではなかったように思う。とにかく日本は食うや食わずの大変なときであった。中学を終って東京に出ても、私は昼間と夜学、その間に語学の学校と、一日に三つ通っていたから、本を読む時間も無かったような気がする。教師になってからも、教えることや自分の勉強以外はあまり熱心でなかった。

でも、永い間には悩むことがあったし、本をはなれて寂しく思うこともあって、哲学や宗教や人生の書といったものを開いたことがあったが、ながつづきはしなかった。「頼りになるのは、人の書いたものより自分の経験」などと、思い上がったことを考えていたこともあった。しかし、なんと理屈をつけようと、私の読書不足は怠惰によるもので、若い頃から読書に努めていれば、もっと広い、深い、豊かな人間になれたのではないかと、寂しい思いが一人である。

人は誰でも、優しい、美しい画や音楽に接したとき心が癒される。読書も同じで、良い本を読めば誰しも感動する。真剣にもとめる人々にとって、良書ほど心の支えとなるものはないだろう。それは、人間の永い歴史を通して、多くの先輩達がいのちをかけて考え、悩み、模索しつづけた人生のあり方を語ってくれるものであるからである。我々は、そのなかに、先人の体験した苦しみ、悲しみ、絶望、祈り、愛、希望、諦念のすべてを、深い共感をもって感じとることができる。先人の生きかたに照らして自分の道を探ることができる。良書は我々に与えられた最大の遺産であり、人生の師ともいえる。良書から学ぶところは尽きない。かつて戦争のとき、親鸞の歎異抄に支えられて、厳しい戦場の日々を生きぬくことができたという学徒兵のことを聞いたことがある。一冊の本がそれ程大きい力をもつものだろうか。そのような感動と救いの体験を私はもたない。怠惰のためか、かえりみて寂しいものがある。

春休みは時間がある。どうか良い本を読んでもらいたい。難しくても、手ごたえのある古典を読んでもらいたい。十分に時間をかけて、一行一行じっくり考えながら、自分の考えを作者と対話するような気持ちで読んでいってみたいはどうか。途中でなげださないで最後まで読むことが大切である。きっとそれだけのことはある。良書は心をつくる。読むべきときに読んでおかなければならない。摂るべきときに必要な栄養のように。読書不足は心を寂しく貧しいものにする。学生時代こそ心と体をつくるべきときである。悔いのないことを君たちにねがっている。私も一生懸命しなければならない。

# 随 想

## ＊ 蟻と南北格差 ＊

工業化学科教官 伊藤正之

突然「ウァー 蟻・アリ・蟻だー」驚きとも悲鳴ともつかぬ声が台所から聞えてきた。見ると甘い食物の上は蟻だらけ、昨夜食べ残しておいたパイナップルの缶詰などは液面が見えない位にむらがっている。

赤道直下のある国で工場を建設していたときの出来事である。

その蟻の挙動をよく観て、面白いことを発見した。日本の蟻は猛烈な働き者、冬に備え全員で協力して食物を穴に運び込む。熱帯の蟻は

1. 一見、日本と同じように見えるが、全員その場所で食べている。なかにはチーズの上で満腹し、ヒックリ返っているもの。快樂死をとげているもの。息をふきかけるとコロコロ転って落ちる。
2. 一匹が食物にくらいつく。他の蟻がくると追払い喧嘩をはじめ。しばらくすると、あきらめて一緒に食べている。一見、協調的にみえるが、行動はバラバラである。

きびしい冬がないという環境は、蟻の性格まで変えてしまうのだろうか、現在が良ければという現実的・享樂的考え方。

日本人が組織力・計画力に富み、がむしゃらに働き  $1 + 1 = 3$  にする能力は、冬への恐怖、未来への不安困窮への心がまえがベースとなっている。

南北格差（南に発展途上国、北に先進国が偏在）が論じられているが、永年培かれたこの環境からくるものは容易に変えることは出来ないだろう。

厳しい冬がない。一年中凍死の心配がなく、果物・水が豊富。食うだけなら困らない。季節感なき豊かな南型の環境が日本に表れつつある。

敗戦後、約30年、日本は貧しく経済的向上をはかることを目標として懸命に働き、日本歴史はじめてといえる「豊かな社会」、自由世界第2位の経済大国を築きあげた。

日本人の多くは飢えた記憶もなく、不安もない。今年、日本の海外純資産はアメリカ・イギリスを抜き世界第1位となり、このまま推移すると数年ブリア 56

後には世界史上最高の値を記録する。

僅かここ15年の海外投資経験で、植民地時代も含め400年の経験をもつ欧米諸国を抜きさろうとしている。

古くからの通説では「文明の中心は東から西へ転位する」とある。人類の歴史をみると、4000年前のメソポタミヤから始まり、エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマン（ゴート族）、スペイン・ポルトガル（ラテン）、イギリス、今世紀のアメリカと移り、21世紀は日本といわれている。

技術・経済面で日本が世界の軸になる可能性は高い。

しかし“日本の将来、恐るるに足らず”の外国の論評の中で、謙虚に耳をかたむけねばならぬ事項として

1. 日本人は単一民族で閉鎖的性格をもつ。閉鎖的なものから最高度の発想、発展は生れない。
2. 日本の大学生は勉強していない。

がある。

徳川300年の鎖国を打破って、驚異的發展を遂げた日本人は、外界に心を開き、すべての面で異質なもののブレンドを積極的に押進める態度が必要である。

豊かさの安逸になれて、ものを考えない学生が社会の中核を占めるとなれば日本の活力は失われていくだろう。

日本が、世界のトップに立ち今までの追つき型から指導型になるためには、従来の価値感を転換しなければならないが、高い意欲、高い勤勉さは残しておきたい。

しかし、物質が豊かになったとはいえ、心の豊かさを感じている人は少なく、むしろ心の病におかされる人、自分の殻に閉じこもる人が多くなっていく。

過去の歴史が示すように、文明の中心となり、栄華を誇った大国はすべて衰退している。今や世界の日本である。成熟から腐敗が始まらないように、各人21世紀にむかって、しっかりした「目標・人生感・心の支え」を静かに考え確立し行動する時期ではないだろうか。

## ＊テレビと読書＊

一般教科教官 鈴木 三 男

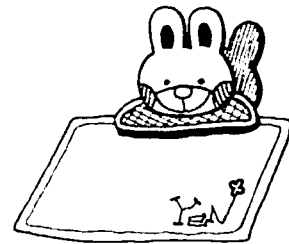
我々は、多種多様な情報や知識をいろいろな手段を通して得ている。中でも、我々の日常生活に最も関わりのある手段にテレビと本があると思う。

私もそうであるが、生まれ育った時から、テレビという物が傍にあるため、ただ漠然と見ているだけで、いろいろな情報や知識を目にすることができるが、それを当然のことの様に慣れきってしまっただけだろうか。ここにテレビの見方の落とし穴があると思うのである。意志とは無関係に一方的に流れて来る情報や知識を、ただひたすら受動的に受取り、物を考えずに鵜呑みにするという習慣を、知らず知らずの内に身に付けてしまっているのである。このために、その反動として、次第に、積極的に物事をとらえ、根底までさかのぼって考える事や、込み入った問題を根気強く考える事など、つまり、物を考えることが苦手になって来ていると思うのである。言い換えれば、無意識に口を開いてさえいれば、豊富な食べ物や口にすることができるが、その食べ物を噛み砕かずに鵜呑みにするために、消化不良を起こしやすく、十分な栄養になりにくいと言うことである。

一方、本を読んで得られる情報や知識はと言えば、本は、ややこしい活字で当然書いてあるから、テレビの様に簡単にスイッチを入れれば、情報や知識を提供してくれる訳ではない。従って、積極的に、理解しようと心掛けなければ、必要とする情報や知識は決して得られない。また、そのための労力や時間も結構必要となる。しかし、その反面、着実に活字を追って、一つ一つ考え考え読まなければ、先に書いてあることが理解できないから、物事を想像し、深く考える習慣が身に付くであろう。言い換えれば、固い食べ物も、勇気を出し、根気よく噛み砕いて食べれば、消化不良も起さず、十分に栄養になり得ると言うことである。しかし、よく噛み砕く作業は、結構手数がかかるため、敬遠されがちなのである。物を考えると言うことは、神が人間にだけ授けてくれた特権であり、パスカルが言った様に、『人間は考える葦』でなければならぬのである。もし、人間が考える事を放棄してしまえば、人間はただの普通の動物になってしまうのである。従って、本を読み、思い悩み、深く物を考え、感銘を受けることは、人間の証であり、また、人間の心の成長の上で、十分

役立つことである。だから、本は、人間が物を考える訓練を言うなれば、人間が人間であるための訓練をさせてくれる格好の手段であると言ってもよいだろう。

しかし、読書には読書なりの、テレビにはテレビなりの長所や短所があるが、明日に向かって生きる者にとって、この両方の手段を巧みに利用しより広い情報や知識を修得していくことは必要なことである。最初、ふとしたきっかけで抱いた小さな興味や疑問も、初めから内容の難しい本に挑めば、拒絶され挫折を感じながらしぼんでいってしまうのである。そんな時、テレビからの豊富な情報や知識により、小さな興味も疑問も大きく膨らましてくれれば、本を読みたいという意欲を燃え上がらせ、また、難解な点を少しでも噛み砕いてくれれば、難しい本も容易に理解でき、自分なりに納得がいくと思うのである。また逆に、本を読んでも理解しにくいあやふやな点も、テレビの鮮明な映像によって再認識させられることもあると思うのである。積極的に自分の興味や疑問を解決しようと臨めば、テレビも読書のために有役な手段になり得るのである。だから、テレビも知性や教養を高めるために利用し、暇つぶしのテレビは止めて、その分、読書や友人とのディスカッションの時間に当て、大いに幅広い知識や情報を修得して欲しいと思うのである。そのためにも、時間の有効な使い方を一人一人もう一度考え直す必要があるだろう。



## ＊男と女の関係＊

機械工学科教官 渡辺 敏 夫

男と女の関係は、数多くの小説や演劇の題材とされ、洋の東西を問わず常に世間の話題となり、時代の背景の変化に伴い、男と女の関係は移り変わってゆく。この関係を調べれば、社会のようすもわかろうというものである。

今日の道徳的に肯定された男女のかかわり合いは、明治以降文明開化と共に入ってきた西洋文明

(というよりはキリスト教文化)によるところのものである。性愛は結婚が前提であり、1つの愛をつらぬき通すのが美德である。明治の重くしい封建制の後に、民主主義に根ざした新しい知識人が多数輩出された。倉田百三もその中の1人である。彼の著作「絶対の恋愛」における男女の関係、あるいは彼自身の恋愛に対する考えは、恋愛至上主義であり、大正から昭和にかけての民主主義的なより進んだ考えであった。ある人は彼について「彼は恋愛を自己のための1つの重要な要素と考え、恋愛を信仰まで高めねばならない人」と評している。この他に彼の作品には、「出家とその弟子」、「愛と認識の出発」「青春をいかに生きるか」等があり、「出家とその弟子」は諸君たちも読んだことがあると思う。

女性は封建制度の家父長制の中で常に虐げられ、男に隷属せねばならなかったが、女性の側から見た女や女と男の関係のあるべき姿について、進歩的な女性知識人たちによって発表されてきた。

「元始、女性は太陽であった」と言う平塚らいてふによる「むしろ女人の性を礼拝せよ」の著作などや彼女の生き方の中に新しい男女関係を見ることが出来る。

現代では芥川賞を受賞してその特異な内容で一時話題になった、村上龍著「限りなく透明に近いブルー」、池田満寿夫著「エーゲ海に捧ぐ」の中の男女関係が生まれてくる。物質文明が発達した都会の退廃的な男女の関係は、今日の社会を反映している。情報伝達手段の発達で、世界的な規模で情報が伝わる今日、絶対的な道徳が根付かないで若者が成長する。したがって統一した考えが定まらないまま、種々雑多な考えがうずまいてゆくのがこれからであろう。若者にとっては多難な時代である。

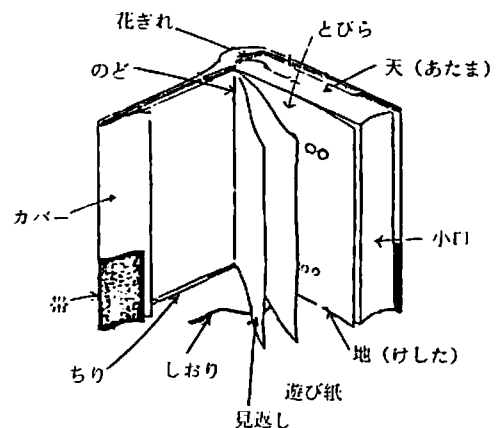
話は一挙に古くなるが、古い時代の男女の関係もおもしろく興味深い。「源氏物語」については、教科書にも度々登場するのでよく知っていると思う。この小説の原文は仲々よめないが、様々な現代語訳がでているからそちらで全文を読んだ人もあると思う。その際に現代の正しいとされる道徳観で読もうとすると、光源氏の行為を糾弾し、紳士の風上にもおけない輩と非難せざるを得ない。ましてや読者が女性ならば、この色情狂の主人公を登場させた作者を非難する気持ちが現われてもしかたがない。しかし、この本は女性によって書かれ、それも1千年余の昔から今日まで伝わってきた作品である。光源氏は特異な性格の持主ではなく、一般的な人であり、場合によっては賞賛に値

する人物であったのであろう。当時の社会には一夫一婦制もなかったと考えねばなるまい。

もう少し時代は溯って、大化の改新前後の中大兄皇子と大海人皇子の兄弟と額田王の三人の関係も奇異である。中大兄皇子は大化の改新後、大津宮を造宮し天智帝となり、弟大海人皇子の妻であった額田王を自分の妻とする。大海人皇子は今では他人の妻となったかつてのわが妻に公然とラブコールを送る。万葉集にその歌がある。「あかねさす……」と「紫草の……」である。このような歌が今日まで残っているのは、二人の関係をことさら非難することがなかったと考えられる。この時代の道徳では、このような三角関係も抵抗なく受け入れられたのであろう。恐らくは、国家存亡の危機に結びついたり、公然の秩序が著しく害されないかぎり、男女の関係はかなりおおらかであったのではあるまいか。「伊勢物語」の好色の主人公の話も同様に考えられる。

我々が納得する男女のかかわり合いは、今までの歴史・文化・風土により、長い時間かかって時間と共に醸成させられたものである。諸君たちが本を読む時こんなことを考えながら作品を読めば、新しい側面が見えたり、より深い読書が味わえるのではないと思われる。古代・近世における主な文学作品の中に見られる男女関係について、中村真一郎著「日本古典に見る性と愛」に興味深い論評がなされている。

## 本の知識



## 先輩が後輩に勧める本

図書委員会では、今回、五年生の協力を得て、「先輩が後輩に勧める本」のアンケートを実施しました。

これは、卒業を間近に控えた五年生諸君が、本校5年間の学園生活の間に読んだ本の中で、特に後輩のためになると思われる良書を、後輩への置き土産として、心をこめて推薦してくれたものです。アンケートの結果は下表の通りです。

後輩の諸君は、先輩の真心を無にすることなく、このアンケートの結果を各自の読書の指針として活用して欲しいものです。

### \* 機械工学科 \*

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
阿部隆寿	ビジネスマンのためのマナー			入社後役にたつ
青木昇	少年・あかね雲(短編集)	井上靖		すがすがしい懐かしさ
"	蛍川	宮本輝	角川文庫	「泥の河」も入っている
"	天の夕顔	中河与一	新潮文庫	
荒木寿一	夜	赤川次郎	角川文庫	
"	麻雀放浪記	阿佐田哲也	角川文庫	
岩澤宏和	PART 2 実践篇 無法ポリスとわたりあえる本	千代丸健二	二見書房	役立つ!絶対がいい
"	ホテルでの英語	中村裕	ワニの本 KKベストセラーズ	これからの為に...
"	生きること、学ぶこと	広中平祐	集英社版	
小野良寛	英会話の基礎	緒方勲	旺文社	入社後ためになる
小野寺基	キャバレー	栗本薫	角川文庫	
大河内清一	電磁波とはなにか	後藤尚久	ブルーバックス 講談社	電波についてよくわかってよい
大塚明	片山敬済のすばらしい ロードレース入門	片山敬済	交通タイムス社	レーサーについての本
"	まちがいだらけの 運転テクニック	徳大寺有恒	三推社	運転方法がかわった
"	時刻表			暇つぶしにとてもよい
荻野幸伸	関ヶ原	司馬遼太郎		
"	三毛猫ホームズのクリスマス	赤川次郎	光文社	
柿沢哲也	アラスカ物語	新田次郎	新潮文庫	
"	麻雀放浪記	阿佐田哲也	角川文庫	

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
柿沢哲也	現代の英雄	レールモントフ	岩波文庫	
草野道夫	天国にいちばん近い島	森村 桂	角川文庫	感動的ダヨー!!
梶田達也	政治と戦乱	横山 伊勢雄	小学館	
小泉弘幸	火の島	新田次郎		
小湊健司	青春のさてつ	石川達三	講談社	難かしいけど・・・
"	Ten Years After	片岡義男	角川文庫	おもしろい
"	彼女が風に吹かれた場合	片岡義男	角川文庫	おもしろい
小林 晋	プロメテウスの乙女	赤川次郎	角川文庫	
"	夜	赤川次郎	角川文庫	
"	孤独な週末	赤川次郎	角川文庫	
近藤純一	Ten Years After	片岡義男	角川文庫	いいんじゃないかな
佐藤 步	昨日悲別で	倉本 聡	理論社	日本テレビ系全国放送
"	Ten Years After	片岡義男	角川文庫	
瀧藤英直	赤川次郎の小説すべて		角川文庫	若者向きです
菅波政弘	たけしくんハイ	ビートたけし		とてもおもしろい
鈴木幸夫	Wの悲劇	夏樹 静子		
高田俊之	闇のよぶ声	遠藤 周作	講談社	おもしろい
高橋 健	図解マイコンのためのアセンブラ入門	大原茂之 共著 倉田了一	オーム社	
菜花紀男	はるかなる我がラスカル	スターリング ・ノース		とにかく良い
"	西部戦線異常なし	レ マ ル ク		ためになる
浜津 一信	私は忘れない			離島で生活する苦勞
古市喜重	バリバリ伝説	しげの 秀一	講談社	オレのライバルだぜ!
"	鋼鉄はいかにして鍛えられたか(上・下)	F.オストロフ スキ	岩波書店	ロシアのヒロイズム
矢之目 正樹	境界要素法の基礎	神谷 紀生	培風館	卒研に役立つ
矢田 栄	俺のハートがNOと言う	片岡義男	角川文庫	
渡辺 仁	伝熱工学	一色 尚次	森北出版	卒研に役立ちます。
渡部 淳	寝とられ宗介	つか こうへい	角川文庫	
"	春の夢	宮本 輝	文芸春秋	
"	秘密の花園	松本 隆	新潮社	

＊電 気 工 学 科＊

先輩の氏名	書 名	著 者 名	発 行 所 等	短 評
安 彦 光 章	汚れた英雄	大 藪 春 彦		すばらしい
”	坊ちゃん	夏 目 漱 石		感動した
”	窓ぎわのトットちゃん	黒 柳 徹 子		おもしろい
池 田 幸 雄	天国への階段	栗 本 薫	角川文庫	
”	グイン・サーガ	栗 本 薫	ハヤカワ	
石 井 惣 市	生きること 学ぶこと	広 中 平 祐		創造することの苦しさ 楽しさ
岩 崎 里 儀	羅生門・鼻	芥 川 龍 之 介		短編で飽きない
”	痴人の愛	谷 崎 潤 一 郎		おもしろい
歌 川 純 一	おかしなおかしな 数学者たち	矢 野 健 太	新潮社	数学者の裏話
”	からみ学入門	な だ い な だ	角川文庫	やってみたくなる
歌 川 欽 也	真幻魔大戦	平 井 和 正	徳間文庫	時代を超越した、壮大 なスペクトル・ロマン
”	軽井沢 <sup>シンドローム</sup> 症候群	たがみよしひさ	小学館	誰もが一度は読むべき 作品
大河原 章	M・ハイデガー 「存在と時間」入門	渡 辺 二 郎	有斐閣社	「構造と力」よりリアル
”	にっぽん再 <sup>鎖</sup> 国論～ぼくら に英語はわからない	岩 谷 宏	ロッキング・オン社	日本人の思考体系とは
”	さばおり劇場	いがらしみきお	講談社	ストイシズムの極限論
大 平 栄 治	現代用語の基礎知識		自由国民社版	一般常識が身につく
金 成 一 幸	実用デジタル回路	角 田 秀 夫	電機大出版局	実用的でわかりやすい
”	真幻魔大戦	平 井 和 正	徳間文庫	壮大なスペクトルロマン
河 村 久 利	Xの悲劇	エラリー・クイーン		推理小説の最高傑作
菅 野 省 英	奥の細道	松 尾 芭 蕉		趣きがある
”	源氏物語	紫 式 部		一度は読んでおきたい
”	若きウェルテルの悩み	ゲ ー テ		おもしろい
菅 野 三 男	宇宙の戦士	ロバート・A. ハインライン	早 川	暴力肯定、戦争万才
菅 野 実	オペアンプの基本と応用	角 田 秀 夫	電機大出版局	卒研などの参考に
”	家族八景	筒 井 康 隆	新潮文庫	
”	タケシくんハイ	ビート たけし		
菅 野 暢 夫	こころ	夏 目 漱 石		漱石の最高傑作
菊 地 克 彦	マイクロコンピュータの将来	ワイズ著/ 有沢誠訳	近代科学社	おもしろい

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
菊地克彦	マイクロマウス マイコン 迷路ロボットの作り方	金山裕ほか	近代科学社	ためになった
国武弘之	郷愁	H. ヘッセ	新潮文庫	考えさせられる一冊
熊谷中	現代用語の基礎知識		自由国民社	時代が見えてくる
〃	スター・ウォーズ A NEW HOPE	ジョージ・ ルーカス	角川文庫	ビデオより安い
〃	銀河帝国の興亡・全3巻	アイザック・ アシモフ	早川文庫等	友人が返してくれない
河野繁	ときには星の下で眠る	片岡義男	角川文庫	とてもよい
〃	ウィンディー	泉優二		よい
小林修一	パルス・デジタル回路	荒牧成光・ 山路康貴	日本理工出版会	わかり易い
佐々木敦	アインシュタインの世界	L. インフェルト著 武谷三男・ 篠原正暎訳	講談社	わかりやすい
〃	核融合への挑戦	吉川庄一	講談社 ブルーバック	おもしろい
佐藤裕幸	生きること・学ぶこと	広中平祐		この本は若いみなさんに ぜひ読んでもらいたい
斎藤武	語りつぐ経営 ～ホンダとともに30年～	西田通弘	講談社	本田技研(株)の驚異!!
〃	武器よさらば	ヘミングウェイ	新潮文庫	思うほど、かたくない
〃	彼のオートバイ 彼女の島	片岡義男	角川文庫	バイクには味がある
塩田直人	絶句(上・下)	新井素子	早川書房	絶句・・・・
〃	人間失格	太宰治	新潮文庫	繊細な感性だ
鈴木隆良	高電圧工学	木原登喜夫・ 鳳誠三郎	共立出版(株)	卒研にかかせない一冊
鈴木智昭	企業のなかでどう生きるか	山田雄一	講談社現代新書	企業についてずばり!
〃	トランジスター技術		CQ出版社	レポートにも役立つ!
鈴木啓修	共産党宣言	カール・マルクス		食わず嫌い撲滅
〃	ムツゴロウの青春記	畑正憲		先輩が勧めてくれた
〃	貧しき人々	ドフトエスキー		ただただ美しい
添田弘毅	アルジャーノンに花束を	ダニエル・キース	早川書房	感動
〃	殺される側の論理	本多勝一	朝日新聞社	怒り
〃	ユービック	フィリップ・K. ディック	早川書房	驚き
谷平久光	科学論文をどう書くか	末武国弘	講談社	
〃	カレーライスの唄	阿川弘之	講談社	
〃	ムツゴロウの青春記	畑正憲	文芸春秋(株) (文春文庫)	
玉川道昭	電気絶縁紙	齊藤幸男 ・武祐一郎	コロナ社	卒研用



先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
根本 進	麻雀放浪記(I), (II), (III)	阿佐田 哲也	角川文庫	
平間 美香	高分子概論	片山 将道	日刊工業新聞社	わかりやすい
蛭田 勇規	生きること, 学ぶこと	広中 平祐		創造の楽しさについて
深谷 保史	小型パワー・ デバイスの使い方	久保 大次郎	CQ出版社	実用的
門馬 文吉	ファンデーション	アイザック・ アシモフ	早川 SFシリーズ	
渡部 哲	ロック微分法	渋谷 陽一		ロック愛聴者の入門書
渡辺 英政	塩狩峠	三浦 綾子		感動的
"	航空機事故	柳田 邦男		興味深い内容
渡部 雅徳	レ・ミゼラブル(I)~(V)	ヴィクトル・ユゴー	新潮文庫	とにかく感動した

＊工業化学科＊

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
会田 聖一	汚れた英雄	大藪 春彦	角川文庫	かつていい世界
"	幸せは白いTシャツ	片岡 義男	角川文庫	青春は風のようにかけぬける
青木 茂幸	がんばれ元気	小山 ゆう	小学館	
"	人間失格	太宰 治	講談社	
栗野 博樹	それからの武蔵, 全冊			すてき!
"	汚れた英雄 I~IV	大藪 春彦	角川文庫	すごい!
"	たけしくんハイ	北野 たけし		おもしろい!
磐城 恵子	バーボン・ストリート	沢木 耕太郎	新潮社	
"	スペンサー・シリーズ	ロバート・B. パーカー	早川書房	
石崎 文彦	田中角栄の知恵を盗め!	小林 吉弥	主婦の友社	君も梟雄になれる!!
伊藤 忠	文明の逆説	立花 隆	講談社文庫	
"	なぜなにキーワード図鑑	山崎 浩一	冬樹社	
小野 剛	金閣寺	三島 由紀夫	新潮文庫	おもしろい
"	風にそよぐ葦	石川 達三	新潮文庫	おもしろい
"	楡家の人びと	北 杜夫	新潮文庫	おもしろい
小沢 寿哉	2つの祖国(上・中・下)	山崎 豊子	新潮社	山河燃ゆの原作
"	田中角栄研究(上・下)	立花 隆	講談社	

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
小沢寿哉	冬の旅	立原正秋	角川文庫	
斎藤則夫	黄金の腕	阿佐田哲也	角川文庫	迫力がある
"	匠の時代(1)~(10)	内橋和人	新潮文庫	開発の苦勞がわかる
"	もどり川心中	連城三紀彦	新潮文庫	感動的である
鈴木淳	新聞		各新聞社	情報の宝庫!
"	ごみと都市生活	吉村功	岩波新書	
"	シャーロック・ホームズの宇宙戦争	M. W. & W. ウェルマン 深町真理子 訳	創元推理文庫	
鈴木竜暢	幽霊物語	赤川次郎	集英社	おもしろい
鈴木雅博	氷点	三浦綾子	新潮文庫	おもしろい
鈴木学	愛と死、友情、馬鹿一	武者小路実篤	新潮文庫	
高橋和浩	青春流浪	佐伯千秋	集英社文庫	人にはそれぞれの青春があり、それについて自分の青春を考える
"	ファイン・セラミックス	柳田博明	講談社	セラミックについてわかりやすく書いてある
高橋正親	赤眼評論	椎名誠		鋭い批評エッセイです
国分靖	人間失格	太宰治	角川文庫	明るい方にどうぞ
高井基	ユダヤ人の利殖術	田丸博文	太陽企画出版	
"	冷蔵庫より愛をこめて	阿刀田高	講談社文庫	
"	夜になっても遊びつづける	金井美恵子	講談社文庫	
豊島裕基	逃がれの街	北方謙三		男の優しさと野性が味わえる
"	悪魔の部屋	笹沢左保		男が復讐のためにレイプした女のその男に対する体と心との微妙な変化がおもしろい
永山武志	竜馬がゆく(全八巻)	司馬遼太郎	文春文庫	最高
"	ながさき巡歴	片寄俊秀	日本放送出版協会(NKKブックス)	最高
新見栄	学問のすすめ	福澤諭吉	新潮社	
長谷川裕一	麻雀放浪記全四巻	阿佐田哲也	角川文庫	必読!!
星さとみ	花埋み	渡辺淳一		女性の方にすすめたい
松野裕一	仮面の告白	三島由起夫	新潮文庫	考えさせられる
青木英夫	汚れた英雄	大藪春彦	角川文庫	旧車に詳しくなる
皆川英治	プロ	かわぐちかいじ	竹書房	おもしろい
"	エントロピーとは何か	堀淳一	講談社 ブルーバックス	ためになる

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
皆川英治	海狭を越えたホームラン	関川夏央	双葉社	隣国を知る手懸かりに
村上浩己	日はまた昇る	ヘミングウェイ	新潮文庫	
山口真	射程	井上靖	新潮社	おもしろい本
山野辺政志	赤頭巾ちゃん気をつけて	庄司薫	中央公論社	おもしろい
"	マーク・トゥエイン短編集	マーク・トゥエイン	新潮社	おもしろい
湯沢睦	麻雀放浪記	阿佐田哲也	角川文庫	2の2の天和
"	北斗の拳	ぶろんそん+はらてつお	集英社	お前はもう死んでいる
"	包丁人味平	ビッグ錠・牛次郎	集英社	
遊佐寛	速読の英語	松本道弘	プレジデント社	
渡辺敬嘉	高分子概論	片山将道	日刊工業新聞社	
渡辺知幸	井上成美	井上成美	井上成美伝記刊行会	軍拡時代の必読書
"	中継ステーション	クリフォード・D. シマック	早川文庫	ヒューゴー賞受賞作品
"	論理哲学論考	L. ヴァイトゲンシュタイン	法政大学出版局	哲学のアンソロジー
渡部均	竜馬がゆく(上~下)	司馬遼太郎	文春文庫	人生に役立つ!
"	誰がために鐘が鳴る(上・下)	ヘミングウェイ 大久保康雄=訳	新潮文庫	戦争を舞台にした物語

＊ 土木工学科 ＊

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
阿部秀行	二十一歳の父	曾野綾子	新潮文庫	
"	恋人たち	立原正秋	角川文庫	
"	水点	三浦綾子	角川文庫	
秋山裕久	理科系の作文技術	木下是雄	中公新書	ためになる
今泉敏郎	汚れた英雄	大藪春彦	角川文庫	映画よりおもしろい
"	俺のハートがNOという	片岡義男	角川文庫	題名がいい
磯松良男	ニャロメのおもしろ数学教室	赤塚不二夫	角川文庫	おもしろいから、ぜひ
"	なるほど愛情学	武田鉄矢	小学館	とにかく読んでほしい
"	法則・公式・定理 雑学事典	藤井清・町田彰一郎	日本実業出版社	雑学博士になれる
小野裕樹	勉縮のすすめ	松山幸雄	朝日文庫	大変勉強になる本
"	積木の箱	三浦綾子	新潮文庫	感動する本

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
小野寺 義 則	宮本武蔵	吉 川 英 治	中央公論社	感動を呼ぶ
"	ファウスト	ゲ - テ		むずかしいかも
及 川 幸 弘	竜馬がゆく	司 馬 遼太郎	文春文庫	
大久保 敏 己	海 峡	岩 川 隆	文芸春秋	
完 野 育 政	氷 点(上/下)	三 浦 綾 子	角川文庫	原罪について考える
"	父 親(上/下)	遠 藤 周 作	集英社文庫	父親と子の愛とは
兼 子 清 人	糞尿博士・世界漫遊記	中 村 浩	現代教養文庫	おもしろい
"	剣岳(点の記)	新 田 次 郎	文春文庫	
国 井 克 彦	日本の条件		日本放送 出版協会	読んだらいいと思う
"	チップス先生さようなら	ヒルトン 著 菊地重三郎 訳	新潮文庫	よい本です
"	システム工学とは何か	渡 辺 茂 夫 須 賀 雅 夫	日本放送 出版協会	必読
今 野 拓 哉	坂本竜馬			
小 山 浩 司	欽ちゃんつんのめり	萩 本 欽 一	光文社	ためになる
後 藤 崇	甘えの構造	土 居 健 郎	弘文堂	ためになる
"	着想の技術	筒 井 康 隆	新潮社	おもしろい
佐 藤 安 正	建築法規用教材	社団法人 日本建築学会	日本建築学会	就職して絶対役に立つ
"	驢馬の鈴	三 浦 哲 郎	文春文庫	なるほど
"	中国・激動の世の生き方	城 山 三 郎	文春文庫	すばらしい
坂 本 貴 司	第3の核(上/下)	フレデリック・ フォーサイス	角川書店	そんじょそこの推理小説とは一味も二味も違う
志 賀 晃 一	金魂巻	渡 辺 和 博	主婦の友社	
"	信用取引	五十嵐 洋 二	現代書林	
鈴 木 修	まぼろしの橋	三 浦 哲 郎	文春文庫	なんともいえない
鈴 木 展 之	延安捕虜日記	鈴 木 伝三郎	国書刊行会	
"	北条早雲(1)~(5)	早乙女 貢	文春文庫	
鈴 木 浩	三毛猫ホームズの クリスマス	赤 川 次 郎	カッパ・ノベルズ	スリルがある
鈴 木 洋 一	スタイルズ荘の怪事件	アガサ・ クリスティ	ハヤカワ・ ミステリ文庫	映画化されればいいな
"	全開で飛ばせ	大 藪 春 彦	光文社	カー情報小説
"	F2グランプリ	海老沢 泰 久	新潮文庫	コンマ1秒の未来
鈴 木 良 之	男の作法	池 波 正太郎	新潮文庫	男の常識
"	抜擢の論理	塩 田 丸 男	新潮文庫	日本的出世術

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
鈴木良之	あぶさん	水島新司	小学館	感動!!
添田英二	この30年の日本人	児玉隆也	不明	スゴイ
"	忍ぶ川	三浦哲郎	新潮	芥川賞受賞作
高萩昭宏	徳川家康	山岡荘八	講談社	全部で26冊
"	あぶさん	水島新司	小学館	珠玉の一作
"	NEXT		講談社	時代を先取りできる
高木正一	司馬遼太郎全集	司馬遼太郎	文春文庫	ためになる
田辺秀雄	彼のオートバイ彼女の島	片岡義男	角川文庫	バイクの描写が最高
"	湾岸道路	片岡義男	角川文庫	男の生き方を感じる
"	蘇える金狼	大藪春彦	角川文庫	超ハードアクション
館正三	太陽の世界 (12) 霊界の支配者	半村良	角川書店	?
"	山口組壊滅せず	鈴木達也	東部書房	?
玉川善徳	さまざまな迷路	星新一	新潮	おもしろい
"	生きると思うこと	三浦綾子		ためになる
"	海峡	岩川隆	文芸春秋	とにかく読んで!!
蛭田健一	太閤記 上・下	司馬遼太郎	新潮文庫	おもしろい
福地和雄	岩に立つ	三浦綾子	講談社文庫	おもしろい
"	塩狩峠	三浦綾子		感動!
"	あかんたれ	花登篁	文春文庫	おもしろい
松本康則	コンパクト六法	編集集	岩波書店	ためになる本だ
"	ヤングオート	荻原真介	淡路書房	若人の心を理解できる
"	悪女について	有吉佐和子	新潮文庫	「女の人」がよくわかる
榎内信行	無名碑 (上) (下)	曾野綾子	新潮文庫	感動した
"	権利のための闘争	イエーリング	岩波書店	ためになる
緑川裕之	剣岳 (点の記)	新田次郎	新潮文庫	
"	破壊	島崎藤村	新潮文庫	
"	女社長に乾杯	赤川次郎	新潮文庫	おもしろい
室井辰盛	太郎物語	曾野綾子		素朴
渡辺和彦	海峡	岩川隆	文芸春秋	

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
渡辺 淳	雲の鎖	黒岩 重吾	集英社	おもしろい
〃	私小説	瀬戸内 晴美	集英社刊	
渡辺 正令	法学概論	右山 健次郎	学陽全書	たいへんおもしろい
〃	政治・経済	碧海 純一	山川出版社	勉強になる
〃	電子計算機はこうして使 われている		講談社 ブルーバックス	よくわからない
渡辺 良洋	伸びる男はどこが違うか(会 社で自分を生かす100の知恵)	邑井 操	新潮文庫	有益な助言と例話百題
〃	心で語ろう一人をいい気 持ちにさせる話し方	鈴木 健二	新潮文庫	スピーチの秘訣
〃	2039年の真実	落合 信彦	集英社	アメリカの醜い恥部

## 君の図書館利用度は……？

＝ 昭和59年度 冬休み中図書館利用状況 ＝

### (1) 帯出人員及び冊数

学科	学年	人 員						冊 数					
		1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5	計
機 械		7	3	3	15	11	39	12	6	6	27	20	71
電 気		3	11	7	8	8	37	6	19	12	15	18	70
化 学		5	4	10	12	4	35	10	7	17	21	7	62
土 木		2	3	2	2	6	15	4	5	3	4	11	27
計		17	21	22	37	29	126	32	37	38	67	56	230

### (2) 分類別冊数

分類	学年	1	2	3	4	5	計
総 記		3	1			2	6
哲 学		1			2		3
歴史・地理		5	13				18
社会科学		2	1		1	1	5
自然科学		12	9	22	28	5	76
工学技術		7	9	14	33	47	110
産 業							
芸術体育							
語 学				1	2	1	4
文 学		2	4	1	1		8
計		32	37	38	67	56	230

(3) 帯出者学年・科別

学年	科	分類 在籍人	総記	哲学	歴史	社会	自然	工・技	産業	芸・体	語学	文学	計
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	M			1		1	3	5				2	12
	E		2		4								6
	C				1	1	7	1					10
	土		1				2	1					4
	計		3	1	5	2	12	7				2	32
2	M		1		1			4					6
	E				10	1	3	3				2	19
	C						6	1					7
	土				2			1				2	5
	計		1		13	1	9	9				4	37
3	M						5	1					6
	E						2	9			1		12
	C						14	3					17
	土						1	1				1	3
	計						22	14			1	1	38
4	M			2			4	20			1		27
	E						5	9				1	15
	C					1	19				1		21
	土							4					4
	計			2		1	28	33			2	1	67
5	M						1	19					20
	E		2				1	15					18
	C					1	2	3			1		7
	土						1	10					11
	計		2			1	5	47			1		56
総計			6	3	18	5	76	110			4	8	230

＊ 昭和59年度 教官、学生研究成果 ＊

I 教官 (紀要論文目次)

塩化ビニル塗膜の塩素イオン透過率に及ぼす  
膜厚と温度の影響—その2 菅野喜之  
小林昭彦  
長坂秀雄  
超音波霧化器の駆動回路について 山崎數彦  
厚膜 IC 化 TV 電子チューナ 山崎數彦

低雑音 MOS・FET と高 Q チューニングダイオードを用いた UHF-TV 電子チューナの高周波増幅回路 山崎數彦  
複素分枝によるエネルギー閉込めを利用した二重モード圧電フィルタ 渡辺博  
中村信良  
清水洋

ナフタレン環を有するオキサゾール系けい光増白剤の合成とそれらの性質  
 小磯 武 文  
 小林 靖 明  
 五十嵐 喜 雄  
 有機性河川底泥の粘着特性について  
 橋 本 孝 一  
 伊 藤 宏  
 江 尻 勝 紀

に関する一つの試み  
 根 岸 嘉 和  
 平 島 健 一  
 A E 波形のシミュレーションと破壊源特性の推定に関する研究  
 山ノ内 正 司  
 佐 武 正 雄  
 新 関 茂  
 中 村 好 一  
 歌集「氷魚」小考

平板の静的ならびに動的曲げ解析理論の修正

## II 学生、卒業研究一覽

### ◆ 機 械 工 学 科

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
めっきを利用した応力ひずみの測定法	荻野 幸伸, 菅波 政弘	佐 藤(顕)
平板型ソーラコレクターの熱的性能	草野 道夫, 斉藤 英直	佐 藤(新)
液体窒素の沸騰熱伝達	渡辺 仁	"
圧縮行程におけるポリローフ指数の変化過程について	阿部 隆寿, 小林 晋	窪 田
ガソリン機関へのメタノール混合比率が機関性能に及ぼす影響	小野寺 基, 菜花 紀男	"
流れの可視化について	大河内清一	中 山
マイコンによる境界要素法の研究	大塚 明, 古市 喜重 高田 俊之	佐 藤(憲)
黒鉛の疲労き裂伝ば特性試験	岩沢 宏和, 榎田 達也	淡 路
板ガラスの破壊靱性試験	鈴木 幸夫, 矢之目正樹	"
境界要素法	小湊 健司, 渡部 淳	"
ロボットの設計製作と制御	青木 昇, 荒木 寿一 小野 良寛	石 垣
エポキシ樹脂塗膜の引張試験	浜津 一信	菅 野
亜鉛の上の塗膜の密着力	佐藤 歩, 矢田 栄	"
鉄道から発生する低周波音について	柿沢 哲也, 高橋 健	渡 辺
環境騒音について一道路から発生する騒音の予測	小泉 弘幸, 近藤 純一	"

### ◆ 電 気 工 学 科

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
理想的な差動増巾器の設計・製作	安彦 光章	大 沢
超音波センサーを用いたマイコンによる機械制御	金成 一幸, 小林 修一	"
負帰環増巾器高周波における発振防止	河村 久利	"
音声認識	菅野 実, 佐藤 裕幸	渡 辺(喜)
PCM磁気録音用プロセッサの試作	斎藤 武, 門馬 文吉	"



研 究 題 目	学 生 名	指導教官
塩化ビニルの紫外線照射による絶縁抵抗の温度依存性	石井 惣市	岩 間
CVD装置の製作及びCVDによる各種薄膜作成の研究	佐々木 敦, 塩田 直人	"
A/Dコンバータのマイコンによる波形観測	歌川 純一	山 崎
P. F. M. による光通信システムについて	鈴木 智昭	"
超音波センサーによるカウンターの設計と製作	添田 弘毅	"
PLLを用いたAM検波器の設計と製作	渡辺 英政	"
高周波によるトラッキング破壊特性	大河原 章	鴨 沢
トラッキング破壊による電磁波の周波数分析	鈴木 隆良	"
紫外線照射によるトラッキング破壊への影響	玉川 道明	"
絶縁材料の延伸時におけるトラッキング特性	平間 美香	"
電極及び表面状態によるトラッキング特性	蛭田 勇規	"
トラッキング破壊における電界分布計算	渡部 雅徳	"
低周波スペクトラムアナライザの設計製作	池田 幸雄, 谷平 久光	奈 良
MOSインバータICの製作とその特性に関する実験	大平 栄治, 熊谷 中	"
エッジモード圧電共振子に関する研究	岩崎 里儀	渡 辺(博)
高結合圧電ストリップの幅振動によるエネルギー閉じ込め	国武 弘之	"
マグネトロン・スパッタリング装置の試作とその導体及び圧電体膜製作への応用	歌川 欽也	"
2ユニット優先待機穴長システムについて	菅野 三男	春 日
フォールトトレラントシステムの信頼性評価と比較	菅野 暢夫, 根本 進	"
PLLによるDCモーターの定速度制御	菊池 克彦, 河野 繁	村 田
ステップモーターの動特性とその改善	鈴木 啓修	"
ブリッジ結合磁気回路を用いた新パラメトリック変圧器の実験的考察	菅野 省央, 渡部 哲	岡 沼
ブリッジ結合磁路形パラメトリック変圧器の解析	深谷 保史	"

#### ◆ 工業化学科

研 究 題 目	学 生 名	指導教官
オキサゾール系けい光増白剤の合成	西郡 利夫, 平木 恒男 渡辺 英春,	小 磯
ポリエステル繊維に対するオキサゾール系けい光増白剤の染色性	穴澤 典子	"
イネ中の鉛-プロティンの単離	相原 倫子, 国分 靖	金田(引地)
葉草植物中の抗ガン剤について	" "	"
小麦中のカドミウムおよびニッケル-プロティンの単離	小野 剛, 渡辺 均	"
エステル交換反応における金属化合物の触媒作用	小野 寿哉, 遊佐 寛	伊藤(正之)
セリウム系ガラス研摩剤の研究	青木 茂幸	伊 藤(宏)

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
好气的条件における河川水中へのリン酸再溶出と底質中のリン酸塩特性	粟野 博樹	伊 藤(宏)
マンガンノジュールの硫酸浸出。高スリラー濃度における浸出挙動について	鈴木 学	”
大気浮遊粉じん中の多環芳香族炭化水素の分析	永山 武志	”
下水汚泥の再資源化の研究。汚泥の酸処理による重金属除去	新見 栄	”
主成分分析による小名浜港水質汚濁機構解析	渡辺 知幸	”
イネおよび小麦中の重金属-プロテインの構造解析	会田 聖一, 鈴木 竜暢	引地(金田)
イネ中のカドミニウム-プロテインの単離	皆川 英治, 湯沢 睦	”
3価錯陽イオンと硫酸イオンとのイオン会合定数及びその温度依存性	青木 英夫, 豊島 裕基	高 橋
連続変化法を応用した混合溶液の電導度測定によるイオン会合定数の決定	斎藤 則夫, 高井 基	”
針状酸化亜鉛の酸・塩基性度と指示薬の吸着	磐城 恵子	大 隈
針状酸化亜鉛の電流特性	高橋 和浩	”
水蒸気を含む炭酸ガス雰囲気中における酸化亜鉛の反応	高橋 正親	”
針状酸化亜鉛の合成	長谷川裕一	”
酸化亜鉛への酸素ガスの吸着	渡辺 敬嘉	”
フェニル置換ポリピラジンの合成	伊藤 忠, 山口 真	井 上
フェニル置換ポリピチアゾールの合成	松野 裕一	”
曝気槽内の流動についての測定装置の製作	石崎 文彦	大 沢
分子構造の計算法の開発	鈴木 淳	”
極性液相を用いたガラスキャピラリーカラムの作製	鈴木 雅博, 星 さとみ	小 林
ペルフルオロアルキル基を有するポリフィリンの合成及びその性質	増子 健二	青 柳
ペルフルオロアルキル基を有するオレフィンの合成及びその反応性	村上 浩己	”
ペルフルオロアルキル基を有するピロールの合成及びその性質	山野辺政志	”

◆ 土 木 工 学 科

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
汚泥の有効利用	阿部 秀行	橋 本
水簾粘土のセメント安定処理による有効利用	秋山 裕久	佐 藤(恭)
荷重係数設計法による三径間連続桁の設計と二・三の考察	今泉 敏郎	土 居
港湾再開発に関する二・三の考察	磯松 良男	高 橋(邦)
いわき地区産骨材のアルカリ骨材反応性	小野 裕樹	志 賀
土壌浄化法について	小野寺義則	橋 本
CADシステムによる橋梁計画	及川 幸弘	土 居
アルカリ骨材反応の岩石学的研究	大久保敏己	志 賀

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
透視図による道路線形の検討	完野 育政	高 橋(邦)
水簸粘土と下水汚泥の軽量骨材化	兼子 清人	志 賀
水環境の評価についての一考察	国井 克彦	橋 本
地盤の振動模型実験解析	今野 拓哉	佐 藤(恭)
コンクリートのAE特性に関する基礎的研究	小山 浩司	山 ノ 内
マイコンによる地盤の耐震検討調査	後藤 崇	佐 藤(恭)
多変量解析法による海域の水質データの検討	佐藤 安正	官 野
コンクリートのAEスペクトル特性と破壊機構の関係について	坂本 貴司	山 ノ 内
PC鋼材の付着応力特性について	志賀 晃一	志 賀
剛比・支持条件のちがいによるラーメン断面力影響線の研究	鈴木 修	土 居
多変量解析法による海域の水質データの検討	鈴木 展之	官 野
PC鋼材の付着応力特性について	鈴木 浩	志 賀
路線選定の自動化に関する一考察	鈴木 洋一	高 橋(邦)
道路と鉄道の立体交差の研究	鈴木 良之	高 橋(省)
地盤模型を用いた杭基礎-地盤の連成振動に関する研究	添田 英二	佐 藤(恭)
鋼道路箱げた橋の経済的適用範囲に関する研究	高萩 昭宏	土 居
北上川の流量解析	高木 正一	官 野
層上性平板の静的解析における厳密解	田辺 秀雄	根 岸
道路と鉄道の立体交差についての研究	館 正三	高 橋(省)
平板解析における初期関数法(MIF)の検討	玉川 善徳	根 岸
AE波形に基づいた破壊寸法の推定に関する考察	蛭田 建一	山 ノ 内
コンクリートにおけるAE発生機構のモデル化に関する研究	福地 和雄	〃
道路と鉄道の立体交差についての研究	松本 康則	高 橋(省)
平地区における最適街路網の設計	樹内 信行	高 橋(邦)
いわき地区産骨材のアルカリ骨材反応性	緑川 裕之	志 賀
鋼床版の経済的な縦・横リブ間隔に関する研究	室井 辰盛	土 居
連続立体交差における高架橋の経済性について	渡辺 和彦	高 橋(省)
平面トラスの応力解析	渡辺 淳	根 岸
排棄物の有効利用	渡辺 正令	橋 本
平地区における駐車場適正配置問題に関する一考察	渡辺 良洋	高 橋(邦)

# 新 着 図 書 目 録

◆印は図書館 他は各教官の研究室に  
所在するものを分館別受人順に記載

## 総 記

朝日新聞縮刷版 昭和59年8月～10月号  
朝日新聞社◆  
福島民報縮刷版 昭和59年8月～10月号  
福島民報社◆

民権年鑑 1984 昭和59年版  
〃 〃 1985 昭和60年版 同 ◆  
河北年鑑 1984・1985 河北新報社◆

人類の知的遺産  
75 ハイデッガー 講談社◆  
東洋文庫  
438 聖書とその時代2 平凡社◆  
漢文名作選  
4 文章 大修館書店

## 哲 学

渡辺和靖 明治思想史 ベリかん社  
藤原 暲 日本生活思想史序説 同  
相良 亨 武士の思想 同  
日本人の死生観 同  
佐藤正英 日本倫理思想史研究 ベリかん社

## 歴 史

角川日本地名大辞典 19 山梨県 角川書店◆  
藤堂書の年々記録 上 三重県郷土資料刊行会  
ジョン・D. レック インドネシア歴史と現在 サイマル出版会◆  
高沢啓司 生きいきの青春 講談社◆  
福本雅一 明末清初 同明社

## 社会 科学

鎌田 健 教育工場の子どもたち 岩波書店◆  
日本民族文化大系  
9 蘭と蘭事 小学館◆  
大教育家文庫  
1 孔子 岩波書店◆  
2 孟子・荀子 同 ◆  
3 朱子・陽明 同 ◆  
4 富山・益軒 同 ◆  
5 草花・梅岩 同 ◆  
6 葉行・寛良 同 ◆  
7 白石・諭吉 同 ◆  
8 ソクラテス 同 ◆  
9 プラトン 同 ◆  
10 アリストテレス 同 ◆  
11 モンテーニュ 同 ◆  
12 コメニウス 同 ◆  
13 ロック 同 ◆  
14 ルソー 同 ◆  
15 ベスタロッチー 同 ◆  
16 フィヒテ 同 ◆

17 ゲーテ・シルレル 岩波書店◆  
18 シュライエルマッヘル 同 ◆  
19 ヘルバルト 同 ◆  
20 フレーベル 同 ◆  
21 オウエン・モリス 同 ◆  
22 スペンサー 同 ◆  
23 ティルタイ・ナートルブ 同 ◆  
24 ギイヨ・デュイ 同 ◆  
山口宗之 幕末政治思想史研究 ベリかん社

## 自然 科学

戸川隼人 数値計算法 コロナ社◆  
藤本大三郎 老化はなぜおこるか(ブルーバックスB 578) 講談社◆  
中村登彦 野鳥検索小図鑑 ( \* \* B 579) 同 ◆  
品川嘉也 身近な鳥の語 ( \* \* B 580) 同 ◆  
原田 繁 宇宙における生命 ( \* \* B 581) 同 ◆  
柳田光弘 DNA学のすすめ ( \* \* B 582) 海育社◆  
山崎 昭他 星の科学 ( \* \* B 583) 同 ◆  
飯沼卓司 10歳からの相対性理論( \* \* B 584) 同 ◆  
スター・グン・ジ・イ・グールド ターウィン以来 上下 早川書房◆  
自然科学系「理・工・農・医」学術用語和英大辞典 小倉書店  
M. ライナー 改訂レオロジーの基礎理論 コロナ社  
城阪俊吉 エレクトロニクスを中心とした年代別科学技術史 日刊工業新聞社◆  
F.V. ハント 音の科学文化史 海育社◆  
日本化学会編 実験化学ガイドブック 丸善◆  
化学便覧 基礎編 1,II 同 ◆  
理科年表 昭和60年 同 ◆  
岡村健二 人体 構造と機能 日本看護協会出版  
中尾真保 新版 生体の観察 メチカルフレンド社  
坂本義男他 煙火・高専の化学 三共出版  
空原慶一 地農の力学 鹿島出版会  
小和田正 確率過程とその応用 実教出版  
玄 光明他 パソコン会議録科学技術計算プログラム集 工学図書  
通 和夫 実用NMR 講談社  
竹内敬人 C-13 NMR 基礎と応用 同  
カークビー 新しい水文学 朝倉書店

高橋 清 物質の構造 コロナ社◆  
福井謙一 学問の創造 俊成出版◆

## 工 学

宮崎保光 応用ベクトル解析(電子通信学会大学シリーズ) コロナ社◆  
砂原善文 応用確率論 ( \* \* ) 同 ◆  
菅野 允 電磁気計測 ( \* \* ) 同 ◆  
影塚泰雄 電子計測 ( \* \* ) 同 ◆  
武部 幹 回路の応答 ( \* \* ) 同 ◆  
佐々木昭夫 固体電子工学 ( \* \* ) 同 ◆  
大坂之雄 電子物性 ( \* \* ) 同 ◆  
川端 昭 電子材料 部品と計測( \* \* ) 同 ◆  
西水 雄 電子デバイスプロセス( \* \* ) 同 ◆  
古川静二郎 半導体デバイス ( \* \* ) 同 ◆  
柴田幸男 電子管超高速デバイス( \* \* ) 同 ◆  
辻井重男 伝送回路 ( \* \* ) 同 ◆  
丸林 元 通信伝送工学 ( \* \* ) 同 ◆  
秋山 稔 通信工学 ( \* \* ) 同 ◆  
安達三郎 電磁工学 ( \* \* ) 同 ◆  
大越孝敬 光エレクトロニクス( \* \* ) 同 ◆  
城戸健一 音響工学 ( \* \* ) 同 ◆  
斉藤忠夫 デジタル回路 ( \* \* ) 同 ◆  
有田五次郎 プログラミング ( \* \* ) 同 ◆  
有澤 誠 情報処理通論 ( \* \* ) 同 ◆  
長尾 貞 パターン情報処理 ( \* \* ) 同 ◆  
菅野文友 信頼性工学 ( \* \* ) 同 ◆  
長谷川伸 画像工学 ( \* \* ) 同 ◆  
栗本健美他 パソコンによる境界要素法入門 臺北出版  
中東 天明 マイコンによる作表・グラフ・図形処理 培風館  
昭和59年度 電子通信学会光電波部門全国大会講演論文集分冊1 電子通信学会  
日本録音制御工学会技術発表会講演論文集 1984 9月 日本録音制御工学会  
吉岡 洋他 土の力学II(新体系土木工学17) 技研堂出版◆  
山田 武 研究情報処理のためのパーソナルコンピュータ ソフト・インクス社  
五十嵐寿一 録音振動下(音響工学講座5) コロナ社



ション 三共出版  
 北川徹三 日刊工業新聞社  
 化学安全工学  
 岡広哲男 鉄筋コンクリート橋の設計計算例 山海堂  
 土質力学(土木工学大系8) 彰国社  
 第19回土質工学研究発表会 昭和59年度発表講演集 2分冊の1,II 土質工学会  
 吉野 昇他 公害防止管理技術計算問題の解き方 近代図書  
 コンクリート構造の境界状態設計指針(案) 土木学会  
 宮崎義成 プレストコンクリートマニュアル 工学出版  
 神谷紀生 有限要素法と境界要素法 サイエンス社  
 大地羊三 耐震計算法入門 鹿島出版会  
 石川甲子男 測量技術者のためのパソコン教室 山海堂  
 金井修太郎 パソコンプログラム電卓によるクロソイド  
 曲線の設計と設置 同  
 ホームエレクトロニクス 電気学会  
 中村英夫編 国土調査(新体系土木工学50) 技報堂出版  
 オペレータハンドブックシリーズ・I・エン  
 ジン 日本建設機械化協会  
 C.J.SuppI マイクロコンピュータ辞典 共立出版  
 森本吉春 画像処理 培風館  
 長江貞彦 CAD/CAM への招待 共立出版  
 中島秀之

Prolog 産業図書  
 田中正隆他 境界要素解析の基礎 培風館  
 NEC-PCシリーズ PC-9801, PC-8801  
 ハンドブック 朝日新聞社  
 パソコン周辺機器新作マニュアル 電気新聞社  
 C.A.Brebbia 境界要素解析 丸善  
 G.V.Reklaitis Engineering Optimization Methods  
 and Applications John Wiley  
 Kleinlogel/Haselbach Rahmen fo  
 rmeln Wilhelm Ernst  
 Engineering: Civil and Mechanical  
 Engineering Macmillan  
 S.Okamoto Introduction to Earthquake  
 Engineering University of Tokyo Press  
 Constitutive Equations of Soils 土木工学会  
 竹内善彦編 論説 柔道 不昧堂出版  
 全集日本の古寺 3 北陸信濃の古寺 集英社  
 8 京の浄土教寺院 同  
 12 興福寺と奈良の古寺 同  
 情育と競技 8巻1-4 5-8 9-12 第一書房  
 \* 9巻1-4 5-8 9-12 同  
 \* 10巻1-4 5-8 9-12 同  
 \* 11巻1-4 5-8 9-12 同

情育と競技12巻1-4 5-8 9-12 第一書房  
 \* 13巻1-4 5-8 9-12 同  
 日本プロ野球 50年史 ベースボールマガジン社

語 学

ルーズリーフことばの百科事典 きょうせい  
 白川 静 字統 平凡社  
 福部隆彦他 中国歇后語の研究 風間書房

文 学

尾崎左永子 源氏の恋文 求龍堂  
 ラブレール 第一之書ガルガンデュワ物語 若菜書店  
 第二之書パンダグリュエル物語 同  
 第三之書 \* \* \* 同  
 第四之書 \* \* \* 同  
 日本古典文学辞典5 はじめ 同  
 中国古典詩集花 5 山水と風月 小学館  
 9 行旅と辺塞 同  
 竹内貞夫 楚辞研究 風間書房

